

「教職課程年報第16号」の発刊に寄せて

教職支援センター長

三宅茂夫

一旦は落ち着きをみせていた新型コロナウイルスの感染状況は、すでに第6波を数え、デルタ株はオミクロン株に置き換わり、想像を超えた感染力は再び社会に大きな影響を生じさせるに至っております。今後はピークアウトし、感染そのものが落ち着いていくという見方の一方で、ウイルスの変異は続き、場合によっては爆発的な感染拡大、重症化への可能性も否定できないという見方もあります。第6波では、若年層や子どもたちの感染が深刻な問題となっており、学校現場での対応が非常に困難な課題として浮かび上がってきています。地域によっては再び学級や学校園の閉鎖、保育園などの休園などの頻発といった状況に追い込まれています。これまでのコロナ禍の経緯から、感染拡大の懸念は将来的にも予断は許されず、簡単にはコロナ禍以前の生活に戻ることはできないというのが昨今の認識となりつつあります。第1波から2年以上の月日が経過し、その間のワクチン開発や接種の拡大などにより罹患の状況は変わってきたものの、われわれの生命を脅かす疾病からの脅威に打ち勝つまでにはなっていません。当初の「そのうち終息」という状況から「ウィズ・コロナ」「ポスト・コロナ」のなかでの生活、生き方の練り直しの必要性が喫緊の課題となっています。学校現場においても、子どもたちにこのコロナ禍のなかで、いかに自らや互いの健康や命を守り、賢く、逞しく生きていく力を育成していくのかが問われています。

今年度もコロナ禍のなか、教職課程をご担当いただく先生方や事務職員のみなさまには、授業ならびに実習、採用試験対策などの実施において、感染状況に合わせてさまざまにご尽力を賜り心より感謝申し上げます。今後も先行きの不透明な感染状況のなかで教員養成校には、いかに質を担保した養成教育を展開し、子どもたちに「コロナ禍のなかでいかに自らや互いの健康や命を守り、賢く、逞しく生きていく」ことに必要となる力を育む実践力のある教員を養成できるかが問われています。また、「Society5.0」に象徴される、これからの社会の劇的な変化が予想される中で、豊かに自己を実現し、他者と協働し、人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となる人材の育成が求められています。そうした人材育成において、学校教育への要請と期待は大きなものとなっております。そのための学校教育の抜本的な改革や、教育を担う側の教師の在り方についても新たな指導の内容や方法を含め、さらなる資質の向上が求められます。教員の基礎・基本・基盤となる部分を育てていく教員養成校には、子どもたちのいわゆる「資質・能力」を豊かに育てていくことのできる有意有能な教師を育てるための教育の質の担保・保証が求められています。

それらの養成教育の質保証の社会的要請を受けて、「教職課程の実施体制の確立」や「教職課程を統括する組織の整備」、「教職課程の質保証」を目的に、来年度より「教職課程の自己点検・評価」と「全学の教職課程を統括する組織の設置」が免許法の改定により義務化されます。実施に向けて、教職課程を置く大学では、すでに準備が進められつつあります。今のところそう

した動きはありませんが、やがては大学認証評価のような評価制度につながっていくことも想像されます。自己点検・評価では、各大学の教育目標や教職課程・教員養成の理念などに沿って、教職課程に携わる組織の整備・点検をはじめ、日々の教職課程の教育内容・方法の質的保証に向けた具体的見直し・点検評価などが求められます。授業展開については、おりしも本学で進められております授業改革の一環として、教職課程の授業においても内容や方法の評価・見直しをお願いしたいと思っております。

さて今年度、教員採用試験の合格者数は過去最高となりました。最近は合格者が着実に年々増加する方向で推移してきました。これもコロナ禍の中でありながらも、学生のみなさんの不断の努力と支えてくださる先生方や事務職員のみなさまのお働きによるものと心より感謝申し上げます。近年の本学の教員採用試験の合格者の増加から、今春教壇に立つみなさんが赴任する地域や学校で、すでに教員等をされている同窓生がいるかもしれません。機会があれば同窓の先輩たちを探し、どうぞ人間関係をつくっていただきたいと思っております。懐かしい話をしながら、すばらしい教師となるために教えを請い、ともに学び・育ち合っていただくことができれば嬉しい限りです。保証人のみなさまにもこれまでのご支援に感謝いたしますとともに、卒業されるみなさんが学び育ち続ける教員として益々大成されていかれますことを心よりお祈り申し上げます。

教師を目指す学生のみなさんは、「すばらしい先生」になるために今後も多くの学修や経験を積み重ねていくこととなります。教育の意味や教師の役割について深く理解し、自分の理想とする教師像を模索し、それに近づけるよう希望と自信をもって主体的・行動的・創造的に取り組んでいってほしいと思っております。自らを振り返り、多くの人々や物事とかかわり、対話し、専門性を高め、意欲的に実践的な資質・能力を身に付けるための経験を求め、努力と常に進歩しようとして探求していく態度を培っていきましょう。

教職課程に携わられる先生方にお願ひがあります。コロナ禍での養成教育もすでに足掛け2年目を迎えようとしております。その間に本学において教員として輩出された卒業生たちも、すでに教壇に立ってがんばっていることと思っておりますが、コロナ禍での制約のある養成教育のなかで教職に必要な資質などに補完すべきものがあれば、フォローアップやリカレント教育の必要性も視野に入れた対応が必要となると考えられます。教育の現場で悩んだり困ったりした時に、場合によっては教職課程をご担当の先生方やゼミをご担当になった先生方に助けを求めたり、相談を持ち掛けたりすることも考えられます。そうした時に、温かくご対応をお願いできれば幸いです。何事もない場合でも、時折お声がけいただければさらにありがたい限りです。卒業生たちが教員として生きがいをもち、元気に職務を全うしてくれることが、これからの世界や社会を担う子どもたちを育て、ひいては明るい未来を築いていくことに繋がるはずで

教職支援センターは、今後も資質の高い教員養成、特色ある教員養成、学び続ける教員の養成を目指してまいります。また、社会の要請に応える教員の養成、教職を志す学生の目標実現を図るために、教職課程を統括する全学組織として教育部門と事務部門が一体となって支援を行って参りますので、一層のご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願ひ申し上げます。